

2022 年度外国語学部 FD 活動方針・活動計画

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では、2022 年度においても、FD 研修会および学部自己点検・評価委員会懇談会を軸にして FD 活動を進める。

2021 年度の FD 研修では、京都大学高等教育研究開発推進センターの松下佳代教授による「4 年間の学習成果の捉え方 ―プログラムレベルの評価の方法―」と題した講演会を実施した。本講演会は、卒業論文をはじめとする学習成果の評価体系について学部構成員の見識を深め、本学部のディプロマ・ポリシー達成の質を向上させることを目的としたものだった。2022 年度は、2017 年度の FD 研修以来継続している、外国語教育の現状と課題の的確な把握（アクティブ・ラーニング、オンライン授業、E-Portfolio の効果的活用法等を射程に含む）のため、関連する外部講師を招聘するなどして研鑽を深めるとともに、オンライン・ツール活用を包含した教育能力の向上と、より効率化された授業運営を目指すこととする。

学部自己点検・評価委員会懇談会では、以下に示す各学科の活動方針・活動計画の実施状況を中心に、学科間での意見交換を行う。

2022 年度の各学科の FD 活動方針・活動計画は、以下の通りである。

英米学科

英米学科では 2022 年度の FD 活動として、以下のような計画を立てている。

- 1) 学科が管理する LL 施設の有効利用、および TA の効果的な活用方法などを検討する活動を継続していく。
- 2) 学科内ミニ FD の実施も含めて、学科内 FD 活動をさらに充実させる。
- 3) 学科カリキュラムと有機的に結び付けた視点から、長期の派遣留学生数の維持および更なる増加を図る方策の検討を行う。
- 4) 学科必修科目の内容および評価の標準化の努力を継続する
- 5) 学科の各授業科目をさらに充実したものにするには何が必要か、学科会議などで議論を深めていく。
- 6) 学科運営のための学科内の役割分担の理想的な方法を模索する。

スペイン・ラテンアメリカ学科

- 1) 2022 年度は、2021 年度末に 1 名の教員が定年退職し、1 名の新任教員を迎える。新任教員に対しては、学科内で適切なサポートを行い、スムーズに学科業務に慣れていただくよう、学科全体で心がける。また、外国語教育センターの業務を中心とする 1 名の教員が任期を満了したことから、2022 年度は 7 名体制での学科運営となる。学科内業務に加え、外国語教育センターとの協力など、学科教員が 1 名減ることによる業務量の増加が見込まれ、タイトな運営になることが予想されるが、学科内での協力体制の構築に引き続き努力する。

- 2) これまで同様、ラテンアメリカ研究センターと連携を密にし、国内外の優れた研究者を招いて（実地あるいは状況に応じて Zoom 等の補助的手段を用いて）講演会・研究会を開催し、スペイン語圏に関する相互の意見交換と研究水準向上につなげる機会を持つ。
- 3) 国内外のカトリック大学との教育・研究面での協力・交流関係をさらに広げる。例えば、2021 年度に「海外フィールドワーク B」（コロンビア）で行ったように、本学科と上智大学外国語学部イスパニア語学科の間で他にも共同の科目運営ができないかどうか、あるいは、本学のラテンアメリカ研究センターと上智大学のイベロアメリカ研究所・ヨーロッパ研究所との交流を通じた連携が可能であるかどうかの検討を継続して進める。また、コロナ禍のため 2020 年度に引き続き、2021 年度も一旦中断せざるを得なかった、教員の相互訪問による輔仁大学（台湾）との交流の再開も状況を見ながら検討する。
- 4) 2020 年度末に新たな版の準備が整い、2021 年度末にも改訂作業を進めた学科の教育指導冊子 *Un, dos, tres al español* は、特に学科のスペイン語教育に関するセクションについて大幅に改訂作業を行い、その他の部分についても加筆修正を行いながら、内容のアップデートを進める。
- 5) 学科必修スペイン語科目、あるいは、その他の言語科目については、引き続き、言語科目コーディネーターを中心に、運営上の微調整を行う。2021 年度も、2020 年度同様、コロナ禍のため、学科教員と非常勤講師が一同に集って直接意見交換を行う機会を作ることは残念ながらできなかったが、言語科目コーディネーターを中心として、ネイティブ教員に対しては、日常的に意見交換の機会を設けている。2022 年度はこのような機会の範囲をより広くできないか引き続き検討する。
- 6) 外国語検定試験（DELE や西検）の受験状況に関する学科学生へのアンケートを引き続き実施し、受験・取得状況を把握するとともに、積極的な受験を推奨する。
- 7) 学科選択必修科目の履修方法など、カリキュラムの見直しを検討する。具体的には、3・4 年生で、特殊研究科目など、より高度な科目を必ず履修しなければならないようにすることで、「広く浅く」だけではなく、自分の興味ある分野について「狭く深く」掘り下げ、専門性を高められるようにする。
- 8) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で 2020 年度に引き続き、2021 年度も不開講となってしまった「海外フィールドワーク B」（メキシコ）は、2022 年度は開講に向けて準備を進めている。また、2021 年度に、上智大学外国語学部イスパニア語学科とジョイントでオンライン実施した「海外フィールドワーク B」（コロンビア）は、2022 年度も同様の形で実施するかどうか、協議を進める。スペインでの「海外フィールドワーク A」についても、2021 年度はオンラインで実施したが、2022 年度は現地での実施を検討するとともに、サラマンカ大学からの招聘学生プログラムの再開を先方が期待していることから、状況を見ながら対応を考える。
- 9) 学外におけるスペイン語やポルトガル語のスピーチコンテストは、開催状況を見な

がら、学生への周知を図るとともに、積極的参加を促し、発音や原稿の準備など、必要な指導を行う。

- 10) 2021年度、コロナ禍のため、実際の上演ではなく、動画配信を行ったスペイン語劇であるが、2022年度は実地での上演に向けて検討と準備を行う。

フランス学科

- 1) 2021年度に引き続き、学科内において定期的にミーティングを開催し、授業内容の検討ならびに科目登録・授業運営方法の見直しを行う。また、今年度より FLEC 運営体制が更新されたことに伴い、フランス語科目担当の非常勤教員を集めて教科書会議を開催し、授業方法について事前の打ち合わせを行う。
- 2) 履修ガイダンスや学び方講座の開催、オフィスアワーの設置、学科ウェブサイトや SNS の充実などを通じて学生の履修指導、留学支援、学習支援を継続する。
- 3) 学生の海外留学を促進するとともに、フランス語劇、各種フランス語スピーチコンテストなどフランス語を活かした各種課外活動への参加を奨励する。
- 4) フランス語教育の効果を測定し、その結果をさらにその後の教育に活かすため、実用フランス語技能検定や TCF などの外部語学試験の集団受験を促す。
- 5) 今年度より新たに更新された学科作成 Web ページの充実に努めるとともに、学科 Facebook の更新、オープンキャンパスや高等学校での模擬授業により、学科の広報活動を行いつつ、各専攻の特長をさらにアピールするよう努める。
- 6) フランス語圏に関する専門的知識を有する専門家を招いて教員の研究支援に資する講演会を（必要なら Zoom により）開催する。

ドイツ学科

- 1) 新型コロナウイルス感染拡大以降、2年以上が経過したが、引き続き感染予防を徹底した授業運営が求められている。今後も授業運営等が円滑に進むよう教員同士が、コミュニケーションを密にして細心の注意を払う。
- 2) 今年度も学科専任教員・外国語教育センター所属 L.I.教員・非常勤講師との間で学生の学習状況についてクォーター毎に議論し、教育環境を充実する。
- 3) 2021年度に開始した学科教員による卒業論文の相互評価制度であるが、今年もこれを継続し、より充実した成績評価に繋げる。
- 4) 今年度は既にバンベルク大学の学生より、南山大学への招聘希望が出ている。可能な範囲で受入を準備していく。この他、夏期に開講されるドイツの大学によるオンライン語学講座への参加を学生に促すなどして、学生の学び機会の多様化を図る。
- 5) 学科伝統の「弁論大会・オーラルインタープリテーション大会」の開催を継続するとともに、「ドイツ語劇上演」の継続可能な体制の構築を検討する。ドイツ語劇に関しては、今年度から非常勤講師にドイツ語劇関連科目の担当を依頼している。非常勤の先生とも連携しながら、今後の持続可能な継続を準備する。

- 6) 学科 HP を定期的に更新するとともに、学外への情報発信の重要なプラットフォームと位置づけ有効活用を図る。
- 7) Kreis やドイツ文化研究会など在学生の課外活動への支援を継続するとともに、これら在学生の協力を得て 1 年次生の大学生活を支える体制を堅持する。
- 8) キャリア教育については、引き続きキャリア支援課と連携しながら 1 年次生および 2 年次生に対して講演会の場などを設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。長期インターンシップ企業の新規開拓も検討する。

アジア学科

- 1) 引き続き外国語科目と演習科目に重点をおいて、授業の振り返りを継続する。
- 2) 2021 年度の卒業論文判定会議で導入したループリックの改定の可能性も含めて検討を継続する。
- 3) Q2 に開講を予定していた「海外フィールドワーク A」は不開講とせざるをえなかったが、冬期に開講予定の「海外フィールドワーク B」については、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、実施に向けた準備を慎重におこなう。
- 4) 効果的な学生指導ができるよう、引き続き学科教員間および学科教員と非常勤講師との緊密な連携を図る。
- 5) 学科作成ホームページの定期的な更新による充実を継続するとともに、2022 年度から新たに運用を開始する学科公式 Instagram および YouTube チャンネルの活用方法を学科会議で検討して、受験生や在学生に本学科の特徴を十分に伝えられるよう工夫する。
- 6) インドネシア語学習の意欲を高め、能力を向上させる一助として、2020 年度と 2021 年度は中止としたインドネシア語スピーチコンテストを実施する方向で準備を進める。
- 7) 中国・台湾およびインドネシアへの国費留学希望者に対する説明会や個別支援を継続する。
- 8) 2020 年度から始めた輔仁大学の学生との SNS を利用した交流プログラムを継続して、近い将来に「海外フィールドワーク A」の授業計画に組み込めるように検討する。また、21 年度から試行的に開始した BINUS 大学との交流を継続する。
- 9) FA.com など在学生の課外活動への支援を継続するとともに、これら在学生の協力を得て 1 年次生の大学生活を支える体制を堅持する。
- 10) キャリア教育については、引き続きキャリア支援課と連携しながら 1 年次生および 2 年次生に対して講習の場を設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。

以上